

特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実践

—講演「かがやく社会人になるために」を事例として—

○笠原 桂子（株式会社JTBデータサービス/JTBグループ障がい者求人事務局）

1 背景

(1) キャリア教育の必要性

今後の特別支援学校高等部におけるキャリア教育・職業教育の在り方については、以下の適切な指導や支援を行うことが重要であると報告されている¹⁾。

- ・個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で、適切なキャリア教育を行うことが重要である。
- ・個々の生徒の個性・ニーズにきめ細かく対応し、職場体験活動の機会の拡大や体系的なソーシャルスキルトレーニングの導入などを行う。

(2) JTBグループの聴覚障害者雇用

JTBグループの2019年度上期の障害者雇用実態調査の結果、雇用している障害者は353名であり、うち、聴覚障害は122名と、障害種別で最も多い34.6%を占めた。次いで精神障害57名（16.1%）、下肢障害49名（13.9%）であった。

厚生労働省の障害者雇用実態調査²⁾によると、従業員規模5名以上の事業所に雇用されている身体障害者約42万3千名のうち、聴覚言語障害者は約4万8千名（11.5%）であった。その調査結果と比較すると、JTBグループにおける聴覚障害者の割合は高いと考えられ、長年ほかの障害種別と比較して最も多い実態が続いてきた。

(3) JTBグループの特別支援学校（聴覚障害）向けキャリア教育プログラム

JTBグループの特別支援学校（聴覚障害）向けキャリア教育として、特例子会社である株式会社JTBデータサービスが、設立当初の1993年より特別支援学校（聴覚障害）を中心に職場体験実習受入をしてきた³⁾。

実習内容は、ダミーの事務サポート業務を作成し、就職した際に必要になる様々なスキルチェックを行ってきた。

また、JTBグループの核となる旅行業については、特例子会社の職場実習では体験することができないため、2018年より、首都圏地域の特別支援学校（聴覚障害）高等部生を対象とした、旅行業の魅力を経験するインターンシップを開催してきた⁴⁾。

このような取り組みを背景に、首都圏にあるA特別支援学校（聴覚障害）より依頼を受け、2015年より高等部専攻科生向けの講演を行ってきた。

高等部専攻科は2年課程のため、隔年で違うテーマを設けた。本講演「かがやく社会人になるために」は、2015年、2017年、2019年と3回実施した。

2 講演の目的

本講演は、キャリア教育の一環を担い、生徒のさらなる成長とスムーズな社会人生活への移行に寄与するために、以下の項目を目的に実施した。

- ・働くとは何かを積極的に考え、社会人へのステップアップとする。
- ・業界及び企業研究の大切さと社会人になる前に必要な準備を知り、自分が働く姿を描く。
- ・自分自身の魅力を再確認する
- ・積極的な進路選択のきっかけを作る。

3 講演の対象者

首都圏地域のA特別支援学校（聴覚障害）高等部専攻科の生徒を対象に実施した。保護者及び教員の出席もあった。受講人数は、毎回約40名であった。

4 講演の概要

(1) 時間

本講演は、講演70分、質疑応答25分、合計95分間の中で実施した。

(2) 事前準備

事前に学校に多く寄せられている聴覚障害者の就労に関する課題等をヒアリングし、講演の内容を構成した。

また、座席配置について、ワークを行いやすい設定を学校に依頼した。

さらに、講師が生徒一人ひとりの参加状況を把握し、講演中のコミュニケーションがとりやすくなるように、席札の準備を依頼した。

(3) 講演内容

本講演では、PowerPointによる資料投影を行った。そして、講師が手話とホワイトボードによる文字情報を使用し、聴覚障害のある生徒が直接理解できる手法で実施した。

ア 仕事とは

働くことについて自ら積極的に考えることを目的とし、「仕事とは」のセッションを設定した。

本セッションは、付箋を使用した個人ワークを取り入れた。働くとはどういうことか、何のために働くのかを考えさせ、4枚の付箋に一つずつ記入をさせた。その4枚から重要だと思う2枚を選ばせ、さらにその2枚から重要だと思う1枚を選ばせることで、自らが仕事をしていくうえで何を軸としているのかを内省させた。

イ 企業研究・業界研究

業界及び企業研究の大切さを知ることを目的に、「業界研究・企業研究」のセッションを設定した。

企業がどんな仕事をしているのか、その会社で働いている人たちは、どんな思いで働いているのかを知ることが社会人の一歩となり、そこで働く自身を想像することが重要であることを説明した。

事例として、JTBグループの概要を説明し、どの会社にも同様の理念があり、その理解が仕事をする上では重要であることを伝えた。

その後、「教員」「生徒」のそれぞれのミッションを考えさせることをきっかけに、「社会人になるということは、サービスの受け手から与え手になるということ」を説明し、自らが成長し変わっていくことが重要であるという気づきを促した。

ウ 社会人になる前に

社会人になる前に準備すべきことの理解を深めることを目的とし、「社会人になる前に」のセッションを設定した。

聴覚障害者の就労準備に特に重要な、「たくさん言葉を知る」「相談できる人になる」「働きやすい環境づくり」「余暇を楽しむ」の4つのテーマについて、説明した。

エ 自分の魅力

自分自身の魅力を再確認することを目的に、「自分の魅力」セッションを設定した。

本セッションでは、「友情カード（図）」を用いた他己分析ワークを行い、隣の席の人の良いところを具体的に記入させ、その後、読みながら交換をさせた。また、保護者には、生徒に向けた記入を依頼した。

カードの内容は、就職活動の自己PRや、就職後の自己紹介などで生かすよう促した。

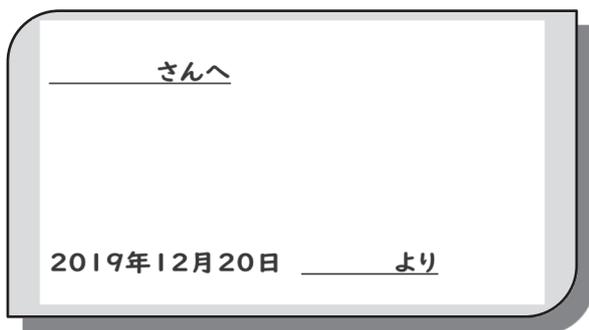


図 友情カード

オ 社会人になるということ

就労準備の具体的な手順の理解を目的に、「社会人になるということ」のセッションを設定した。

自分自身を見つめること、周りを見つめることの両軸が重要であり、社会人になるということは、毎日少しずつ成長し変化をしていくことであることを説明した。

カ 質疑応答

就労に関する様々な疑問や不安の解消を目的に、質疑応答の時間を設定した。

例年多かった質問は、以下の通りである。

- ・職場の聞こえる人とのコミュニケーションの不安
- ・有用なメモの取り方
- ・希望どおりの配属や担務にならなかった時について
- ・事前に勉強しておくの良いこと
- ・聞こえる人の中で働く場合の対処法
- ・コミュニケーション方法について
- ・会議やミーティングへの参加について

主に、音で情報を取ることができないゆえの、仕事そのものの遂行に対する不安や、聞こえる人とのコミュニケーションに関わる不安が多く、例年様々な質問が出された。

5 生徒受講感想

参加生徒からの受講感想は、以下の通りであった。

- ・社会人になる前に必要なことがわかった。
- ・卒業までの間に努力してスキルを身に着けたい。
- ・社会人は大変だと思うが前向きにがんばりたい。
- ・苦手なコミュニケーションも積極的に取り組みたい。

主に、社会人に向けた準備や就職後のコミュニケーション等について、積極性のある感想が多くみられた。

6 今後の課題と方向性

キャリア教育をより充実させるためには、学校側との連携をさらに深め、双方がニーズを取り入れ、向上していくことが重要である。

本講演での学びと気づきが、本人の継続的な成長と社会人に向けたステップアップにつながるように、より実践的で多角的な内容を検討していきたい。

学校においては、本講演が今後のキャリア教育の材料となり、より実践的な指導につながれば幸いである。

【参考文献】

- 1) 文部科学省中央教育審議会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申），（2009），p. 60-62
- 2) 厚生労働省：平成 30 年度障害者雇用実態調査結果報告書，（2019），p. 5-7
- 3) 笠原桂子：ろう学校高等部生対象 職場体験実習の取組ー未来の社会人に向けてー，第 26 回職業リハビリテーション研究・実践発表会 発表論文集，（2018），p. 66-67
- 4) 笠原桂子：ろう学校高等部生のためのサマーインターンシップーJTB グループの取組ー，第 27 回職業リハビリテーション研究・実践発表会 発表論文集，（2019），p. 12-13

【連絡先】

笠原 桂子 e-mail: keiko_kasahara@jtb-jds.co.jp
株式会社JTBデータサービス 総務部定着支援課/
JTBグループ障がい者求人事務局